

# 基本構想

## 第5章 本市をとりまく状況

このような時代の潮流や広域的な位置付けの中、次に掲げる本市をとりまく状況を考慮して計画づくりを進める必要があります。

### 中部国際空港の開港、 現名古屋空港の定期航空路線一元化

定期航空路線の新空港への一元化に伴い、経済・雇用・財政・まちづくりに大きな影響が懸念されています。このため、新空港開港（平成17年（2005年））後の現空港の活用及び周辺地域振興については、名古屋空港将来構想検討会議でとりまとめられた「名古屋空港の活用及び周辺地域振興基本構想」に沿って対応を進める必要があります。また新空港開港までは、引き続き現空港の周辺環境対策と、新空港開港後の周辺地域に新たな活力が生まれるよう対策が必要です。

### 上飯田連絡線の開通、 小牧駅以南の複線化

上飯田連絡線の開通、複線化（平成14年度（2002年度））により、名古屋都心部への利便性が向上し、小牧線、ピーチライナーの利用者の増加が見込まれます。

これに伴い、小牧駅が単に通過点とならないよう、本市の玄関である小牧駅周辺の魅力を高めるとともに、小牧線各駅周辺の整備を進め、都心へ直結した鉄道の沿線にふさわしいまちづくりが必要です。

## ピーチライナーの活性化

ピーチライナーは、本市のみならず尾張北東部の環状公共交通網として、また環境にやさしい交通手段として重要な役割を担うものであり、今後2期線（桃花台東～高蔵寺間）の整備を進める必要があります。

ピーチライナーの経営状況は現在深刻な状態で、上飯田連絡線の開通に期待がかかりますが、周辺開発を含めこの経営状態の抜本的な改善策の実施が求められます。

また巡回バスなどによる公園や周辺施設との連携、駅の階段対策などにより、ピーチライナーをより利用しやすいものとするよう環境づくりを進めることも求められています。



## 名濃道路の開通

名濃道路の開通（平成13年度（2001年度））により、名古屋都心部や現空港、新空港への利便性が高まります。

東名・名神高速道路、中央自動車道と名古屋高速道路、東名阪自動車道などが直結する利便性を生かした、広域的視点に立ったまちづくりを進める必要があります。



## 第二東名・名神高速道路などの開通

第二東名・名神高速道路の開通は、中部国際空港開港と同様、本市の「交通の要衝」としての生産物流産業に影響を与えることが懸念されます。

一方東海北陸自動車道の延伸により、岐阜、北陸地方との結びつきの強化が期待されます。

## CATVの放送開始やパソコンの普及

CATV（平成10年度（1998年度）放送開始）は、本市の新たな高度情報化の基盤として期待され、情報通信の新たなメディアとしての活用が求められています。

小・中学校でのコンピュータ教育の充実や市民へのパソコンの普及、インターネットによるネットワーク型社会の進展に対応し、市や地域の情報化を推進していく必要があります。

## 桃花台建設事業も終了と定住のまちづくりの推進

桃花台建設事業終了（平成10年度（1998年度））により、基盤整備から「定住のまち」として、住民主体による良好な生活環境を目指した、新たなまちづくりを展開する必要があります。

## 2005年日本国際博覧会の開催

21世紀にふさわしい新たなテーマで開催される国際博覧会（平成17年（2005年））により、期間中には国内外から多数の来場者が見込まれます。これを本市を内外にPRする機会ととらえ、まちづくりを推進する必要があります。

国際博覧会に向けて、地球環境や情報通信分野での新たな技術などの開発が見込まれます。これらの技術を、今後公共施設などへ積極的に導入していく必要があります。

## 内なる国際化の促進

本市は企業が多く就労機会に恵まれており、市内在住の外国人は増加しています。地域での相互理解の増進や、生活面や教育面での対応、外国人が共に地域の一員として暮らせる環境の整備が必要です。

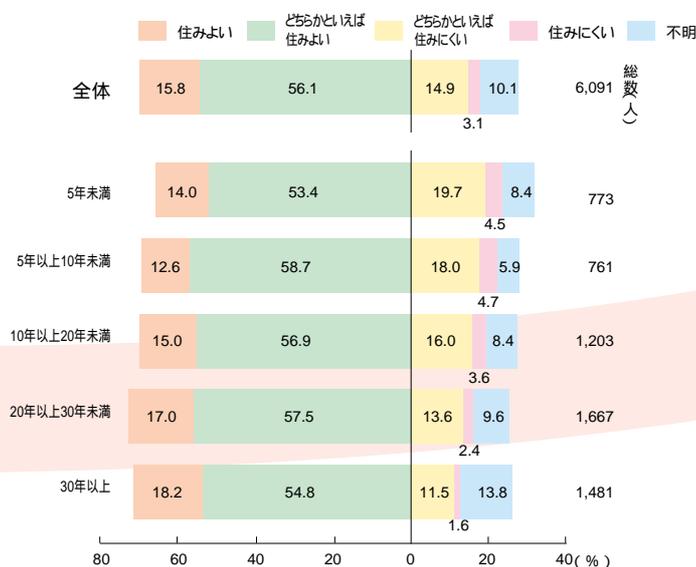
## 財政構造の変化

国や県の深刻な財政状況の中、建設、基盤整備などへの補助金はますます減少していくと考えられます。

本市の財政状況は、まだ比較的恵まれています。経済動向の不透明感や人件費などの義務的経費の増加により、今後の市財政は一層厳しさを増すと予想され、積極的な財源確保を図るとともに、計画的、重点的に施策を展開する必要があります。

### 市民意向調査から 小牧市の住みよさ

居住年数別「住みよさの評価」



「小牧市のよさの評価」

